

膵癌化学療法中に発症した薬剤性間質性肺炎の臨床的特徴に 関する検討

膵癌化学療法中に発症する間質性肺炎(Interstitial pneumoniae:IP)は、化学療法の中断を余儀なくされ、時に致死的となることから生命予後に大きな影響を与える病態です。標準治療の一つである Gemcitabine+nab-paclitaxel 療法は IP の発症頻度は高くないとされていますが、日本人では一般的に薬剤性 IP の発症頻度が高いとされており、実臨床における膵癌化学療法中の IP 発症の正確な頻度は未だ明らかではありません。この研究は、膵癌化学療法中に発症した薬剤性 IP の臨床的特徴について検討し、真の IP 発症率や IP 発症のリスク因子を明らかにすること目的としています。

本研究は国が定めた「臨床研究に関する倫理指針」を遵守し、当院での臨床研究倫理委員会(臨床研究の実施または継続に、倫理的観点及び科学的観点から、及び審議する委員会)においてその科学性・倫理性について厳重に審査され、病院長の承認を受けて実施されます。